

KANAZAWA 本の森 読書会

.....

第21回 オープン読書会

.....

この読書会が目指すのはコレ ①同じ本を読んでも人によって見方が違うことに気付き、多様なものの見方・視野が広がります。②自分の感想を他人に話すことで自分の考えが整理、深まります。③本との出会い・教養が人生を楽しくしてくれます。★実行委員一同、みなさまの参加を、お待ちしております！！

日程 2019年7月18日(木曜日)19:15～20:45

場所 玉川図書館・1階公開ホール／事前申込要先着15名

※6月25日(火)10:00～玉川図書館窓口・電話にて申込受付開始

図書：『万葉集から古代を読みとく』

著者：上野 誠

出版社：筑摩書房

本や映画を見て、思わず「ああ、誰かと語りあいたいな」と思ったことはありませんか?でも同じ本を読んでも、実際の感想は人それぞれですね。「おっ、こんな視点があったのか」と、目から鱗…が読書会のいいところ。今回、玉川図書館の協力を得て、第21回「KANAZAWA 本の森 読書会」を開きます。もし本の森があるとしたら、きっとそこは図書館でしょう。知のワンダーランド・図書館を舞台に、1冊の本がもたらす幸福を皆で味わってみませんか。一人で読むより100倍楽しいですよ。老若男女を問わず市民ならオープンに参加できる読書会です。用意はかんたん。課題本を当日までに読んでくださいね。

◎今回の課題本は、『万葉集から古代を読みとく』上野 誠著です。

<令き月、風和ぐ>

という漢文体の序が寄せられたのは、『万葉集』第5巻「梅花の歌32首」だった。天平2年(730)正月13日、大伴旅人宅で梅の花散る情景を惜しむ宴が催されたのだ。しかし太陽暦2月8日にあたるこの日、梅はまだ開花さえ迎えておらず、裏山では雪が降っていた。つまりこれは、まだ寒い正月に梅の歌を詠みあうという風流を楽しむ、文学的虚構だったことになる。古代社会において『万葉集』とはどのような存在であったのか。

<『万葉集』を紐解いて、耳を傾けると、そこから声が聞こえてくる。>

この本は万葉文化論の第一人者が、この時代に「歌を集めて歌集を作る」ことの意味を、知識ではなく歌の細部にこだわることで提示してみせた、ちょっぴり「奇異な入門書」なのである。(ちなみに、令和のエピソードはこの本に書かれていたものではなく、出典は小学館『新編日本古典文学全集「万葉集」』です。)

【申し込み・問合せ】

金沢市立玉川図書館(玉川町2番20号) 電話:221-1960 FAX:222-6938

【主催】

KANAZAWA本の森・実行委員会 【協力】金沢市立玉川図書館